

復興教育の指導目標	教育的価値	教育課程
学校教育活動全体を通して、復興教育の教育的価値を位置付けた学習活動を展開し、心豊かにたくましく生きる力および地域・社会の将来を担う人材を育成する。	1【いきる】 2【かかわる】 3【そなえる】	全領域

【テーマ】 「ふるさとを元気に！笑顔発信 小本小学校」

【対象】 全学年

【本校における復興教育の視点】

- 1 郷土を愛し、復興・発展を支える人材を育てる。
- 2 震災と向き合い、体験そのものを教材とし、児童の生きる力を育む。
- 3 震災に関する一連の対応を、学校教育活動として有機的に関連付けて指導する。
- 4 本校の状況や児童・地域のニーズを踏まえて活動に取り組む。

【実践の概要】

本校では今年度も全校体制による復興教育を重点とし、「いきる」「かかわる」「そなえる」価値の深化を目標とした年間学習指導計画を作成し教育課程を展開している。

また、復興教育における3つの価値が具体的な学習活動を通して児童に実感されるよう、学習領域全般において指導内容を吟味し、ねらいや重点との関わりやその軽重を見極め、関連付けを図りながら学習活動を展開してきた。

復興教育の実践が児童の生き生きとした心や行動につながり、生きる力の育成につながるよう実践に取り組んだ。

小本の伝統芸能

「七頭舞・七ツ舞発表会」



平成26年度 小本小学校 復興教育推進の重点

【低学年】	
今年度の重点項目	具体的な学習活動
やり抜く強さ	係活動 たてわり掃除 道徳 生活全般
家族の絆	道徳 生活科 お手伝い PTA親子行事
【中学年】	
今年度の重点項目	具体的な学習活動
やり抜く強さ	係活動 たてわり掃除 道徳 生活全般
自分と地域社会	介護施設訪問 運動会 学習発表会 七ツ舞発表会 地域学習(総合一仮施設見学・鮭・社会科見学)
【高学年】	
今年度の重点項目	具体的な学習活動
自分と地域社会	介護施設訪問 運動会 学習発表会 七ツ舞発表会 児童会活動 地域学習(総合一復興会議、地域特産品販売)
夢や希望をもつ大切さ	キャリア教育(総合) 道徳
【全学年共通】	
今年度の重点項目	具体的な学習活動
かけがえのない命 (生命尊重)	避難訓練 介護施設訪問 復興集会 保健・性指導 道徳 国語 理科等学習指導全般 ※生命の尊さ、生き生きと生活することの大切さ(自己存在感、肯定感、有用感、達成感、所属感、自己実現等)
ボランティア	介護施設訪問
学校・家庭・地域での備え	避難訓練 生活科・社会科、総合的な学習
身を守り、生き抜く技能	避難訓練 交通安全教室

【学習活動の実際】

<5年生 総合的な学習の時間>

小本の身近な自然や人々の素晴

らしさ、また地域の歴史や復興の

様子について理解を深めることを目標とし、調べ学習やその成果を発信する活動を行った。

グループごとの取材・調べ活動や見学を進めるなかで、児童自らが地域の素晴らしさを発見し、実感を深める学習となった。これまでの地域学習の内容に、復興への願いや人々の努力を視点として学習を展開することにより、児童のふるさとへの愛情の深化、また自己のあり方を見つめる心の成長を成果として実感している。



命 かがやかせて（6年生・保健体育）

児童に感じさせたい「生」—生きること・命の尊さ 自己存在感 自己肯定感 家族愛



生まれたときの自分と、成長・変化してきた今の自分の心や体について、普段の生活体験や身体測定の数値をもとに子どもたちが実感した。今ある自分の命は、たくさんの祝福を受け大切に育てられてきたものであること。それは、誰の命も同じであること。そして、「未来に向かって生きていくあなたをこれからも支え応援し続けていく。」という家族からの手紙に、児童の深い感動が伝わってきた。「自分を大切にしたい。」「なんでも一生懸命にチャレンジしたい。」などの感想が聞かれ、自他の生命を感じ、毎日を生きていくことへの希望や意欲につながる学習となった。

ふるさと特産品販売活動（6年生・総合）

所属感 自己有用感 達成感 郷土愛

郷土の特産品を広くアピールすることで、ふるさとの復興のため自ら行動しようと学習を展開した。地元の商品販売に携わる方々から看板やポップの製作の仕方、接客マナーを学ぶなど、準備段階から大変意欲的に活動

した。本活動を通じた地域理解、コミュニケーション能力の高まり、そして深い達成感、児童の生活や学習への大きな意欲付けとなり、日々の充実感へとつながった。



七頭舞・七ツ舞発表会（全校・特別活動）

郷土愛 自己存在感 自己有用感 達成感

七頭舞・七ツ舞は小本地区に古くから伝わる伝統芸能で、郷土の誇りとして受け継がれてきた舞である。保存会の協力をいただきながら練習に励み、毎年12月に発表会を行っている。

昨年度も「復興の舞」と題し、地域の人々に希望と元気を届けようと懸命に練習に取り組んだ。地域に生きる一人としての自覚そして郷土への誇りや愛情の深化は児童のよりよい人間形成に大きく関わるものと感じている。



復興集会（全校・特別活動）

「いきる」「かかわる」「そなえる」価値の深化・補充・統合

「悲しかった震災での出来事を、悲しいまま終わらせない。これから生きる力にしていくための復興集会にしよう。」復興集会の目的や子どもたちへの日々の願いを伝えた後、復興教育に関わる学習活動をクラスごとに発表した。子どもたちは、小本の復興状況や地域の人々の懸命な努力、新たに見つけた郷土のよさなどを伝え合った。発表に見入る児童一人ひとりの表情から、これまで切実感をもち主体的に学習してきたことを強く感じた。復興集会は年間指導計画に位置づけ、震災体験や復興への努力を家庭・地域とともに語り継ぐ機会とし、児童のよりよく生きようとする心情や態度の深化につなげていく。



【おわりに】

「子どもたちが生きることに希望を持ち続け、よりよい1日を過ごすために、教師や学校がすべきこと、できることは何か。」過酷な震災に直面し、今なお厳しい環境にあっても必死に成長しようとする子どもたちと家族や地域を目の前にして、問い続け教育指導にあたる毎日である。

今、子どもたちに日々の学習体験を通して、「生」への実感と自覚を深めさせていくこと。このことが生きる希望となり、毎日の生活を生きていこうとさせ、生涯にわたって学び、生きる力を育む土台となっていくものと考えて。わたしたちの願いや実践が、子どもたちの将来におけるよりよい意思決定や行動判断の一因となり、命輝く生き方につながることを期待し、日々邁進していきたい。